

# 會報

平成11年11月15日 発行

第 42 号

関東地区整形外科勤務医会

発行者：会長 村 瀬 鎮 雄

発行所：事務局 代表 関 寛 之

〒359-8555 埼玉県所沢市並木 4-1

国立身体障害者リハビリテーションセンター病院内

関東地区整形外科勤務医会

☎ (042) 995-3100

FAX (042) 995-0355

## 巻頭言

## 診療資料の保存

東京労災病院整形外科部長 伊地知 正 光

整形外科の診療で骨・関節を診るためには、X線撮影はかせない。従って、カルテとともにX線フィルムの保存があつてはじめて病歴室の存在価値が高く保たれ、病院の歴史を語れることになると思う。建物の変遷や人の交替は、病院の歴史の一部であり、患者の流れ、診療録の整理・保存を加えて、古い歴史のある病院と言えると思う。

私は平成2年に東京労災病院に赴任したが、開院40周年を超える老舗の病院と聞かされていたのに、5年間に受診歴のない外来カルテは順ぐりにすべて廃棄され、X線フィルムも2～3割しか保存されていなかった。夏休みに学生アルバイトを頼み、病歴室から廃棄にしようとするカルテとX線フィルムの袋を引き抜いて、次の1年間のスペースを作るのである。廃棄分として分けられたものから、各科で2～3割に限り、重要・保存用として選別されたものだけが、また病歴室に戻るといふ具合であった。非常に驚き、落胆した。

なんとかスペースを見つけ、整形外科のカルテとX線フィルムは、院内の旧車庫や屋上の温室の角や私の居室（部長室）に引き取り、7年間は一応捨てずに保存した。その後、院内規約で、10年間は全ての資料を保存することになった。一瞬ほっとしたが、保存場所は120キロメートル先の栃木県芳賀町の倉庫である。ID番号順に整理され、久しぶりに受診した患者のカルテとX線フィルムは、ID番号で請求すれば数日で届けられることにはなっている。しかし、X線フィルムの袋を見ながら症例を選別し、数多くの症例の所見を検討するようなことは大変困難となり、利用しにくい事態となった。

マイクロ化、フロッピーディスク化、重要フィルムのための選別など、なんとか残そうとする先人の努力を聞いても、費用・労力の問題があり、CR・デジタル化も今後のことである。現存の資料の保存には、とにかく、スペースが欲しい。

## 主要目次

1. 巻頭言 ..... 診療資料の保存 ..... 伊地知正光 ..... 1
2. 日整会役員・評議員懇談会の報告 ..... 2
3. 日整会認定教育研修会のお知らせ ..... 7
4. 勤務医会ニュース ..... 8
5. 会員の移動 ..... 11
6. 入会のご案内 ..... 12
7. 事務局日誌、編集後記 ..... 12

医療に経済性を強調するあまり、目先の利用価値ばかりが判断材料になって、基本的なこと、先人の知恵の集積、資料をないがしろにしてはならないと思う。

特に整形外科は何十年の追跡調査がものをいうことが多く、資料の保存には、費用も労力も十分にかかる必要があると考える。

## 平成 11年度日整会役員・評議員懇談会

平成11年10月6日 於、三井ガーデンホテル(奈良市)

議題は下記のものであった。

- 議題：1. 第73回日本整形外科学会学術集会の中間報告
2. 第14回日本整形外科学会基礎学術集会の運営報告
3. 第33回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会の中間報告
4. 各種委員会中間報告
5. 日整会定款改正に伴う規則等の制定について
6. 評議員提案議題
7. その他

このうち 4. 各種委員会中間報告、5. 日整会定款改正に伴う規則等の制定について、6. 評議員提案議題について報告します。

### 各種委員会中間報告

#### 教育研修委員会

1. スーパーローテイトのカリキュラムの検討をしている。
2. 学会での教育研修会について検討中である。学会期間中の履修単位を6単位までとする原則に戻したい。その理由はランチョンセミナーやイブニングセミナーがスポンサーに都合のよい講演者にかたよる。食事時間にとられて講演時間が1時間に満たない。学会主催の教育研修会とランチョンセミナーなどと講演者が重複するなど弊害がでてきたためである。
3. 日整会卒後研修ビデオを他の出版物へ転載してはいけないことにした。
4. 日整会主催講演会を各地方の講演会とジョイントして行ったり、過疎地域で開くことを企画している。

#### 骨軟部腫瘍委員会

1. 整形外科の病理悪性骨腫瘍取り扱い規約の第3版を今年度中に完成する。
2. 骨軟部腫瘍の化学療法判定法の検討を開始した。

#### 身障福祉義肢装具等委員会

1. 労災での筋電動義手の給付改善に関する要望書を検討中である。内容は現在両上肢切断のみ適応だが、片側切断にも適応されるように。認定施設の基準についても再検討が必要だが、これはリハ学会、義肢装具学会とも調整して協同で要望書を出したい。

#### 2. 介護保険に対する取り組み

整形外科医が主治医として関与できることについて内容を検討し、広報室ニュースや日整会ホームページで会員に伝達する。

## 社会保険等委員会

1. 診療報酬改定に向け、日本医師会および厚生省に23項目の要望事項を提出した。(勤務医会ニュース参照)
2. 9月12日に全国整形外科保険審査委員会議を200名の出席で開催した。
3. 診療報酬の改訂にむけて外保連、日本医師会に委員を派遣している。DRG-PPS関連では厚生省に委員をだして活動している。

## 日整会誌編集委員会

1. 投稿規定の倫理面の改訂に取り組んでいる。
2. Journal of Orthopaedic Science (JOS) のindex medicus への収載がきまった。
3. JOSへの投稿の促進を主任教授と評議員に働きかけた。
4. JOSの購読部数が漸減している。研修施設のJOS購読の義務化を理事会にはかり、認められた。また、今後学会奨励賞にはJOSの掲載を条件としたい旨、理事会に提案している。

## 学術用語委員会

1. 用語集第5版を発刊した。次に向けて見直し作業に入った。今後は用語の起源について調べて載せたい。
2. 日本医学会の医学用語管理事業や日本疼痛学会の標準疼痛用語集の作成に協力している。

## 国際委員会

1. BOA, JOA 合同会議2000に向けて組織委員会を作った。日整会ニュースに詳細を載せる。
2. 発展途上国医療援助に向けて、アンケートを行った。
3. 卒後研修の紹介のための国際機関に協力する。
4. ドイツ整形外科学会から合同会議の申し入れがきているが、諸外国との合同会議は学会同士の対応で臨むという原則にたって調査協議中である。

## 認定医制度委員会

1. 学会認定医制協議会(主要14学会で構成)で協議事項として第3者の専門医資格認定機関を将来設ける。専門医の院内表示を各学会とも積極的に行うということが決まった。
2. 特定短期研修施設申請を受け付けているが、申請は1件のみであった。
3. 認定医資格継続の条件をみたしていない3名の資格を取り消した。
4. 研修認定施設の新規認定と更新時にJOSの購読を条件とした。

## 医事紛争調査委員会

1. 医事紛争助言委員会に1件の依頼があった。
2. 裁判所からの鑑定人推薦依頼が平成8年3件、9年4件、10年19件、11年7件と増加してきた。
3. 第73回日整会でワークショップ「医師賠償責任保険に対する正しい理解」を行う。

## スポーツ委員会

1. スポーツ医学研修会を平成11年8月5、6日に行う。
2. 日整会、日本医師会、日本体育協会のスポーツドクターの一本化について話し合いを始めた。

## 基礎委員会

基礎学術集会の教育研修講演の演題を検討中である。

## リウマチ委員会

1. 平成12年度で新規の認定は中止する。日整会、リウマチ学会の認定医制度の統合のため両学会で制度の運用実施について連携する。
2. リウマチマニュアル作成を検討中
3. 用語集にリウマチ関連用語が少ないので用語委員会と協議する。

## 理学診療委員会

平成11年6月に行った整形外科保存療法に対するアンケートの集計が12月末に集計できる。結果は日整会誌に載せたい。

## 定款等検討委員会

平成11年4月新定款が総会で承認され、文部省に認可申請中である。定款の施行実施に関わる規定である運用規則、選挙規則、選挙細則、罷免に関する規定の案をつくり理事会に答申した。

## インプラント委員会

1. 平成8年に行った脊椎インプラントの調査結果を日整会誌に載せる。
2. 厚生省のインプラントデータ調査委員会の要望にそって骨セメントの副作用調査を行う。
3. インプラント使用に対するインフォームドコンセントのガイドラインを作成する。

## 産業医委員会

1. 整形外科医の産業医活動への積極的参加を促進するため日整会で産業医に関するランチョンセミナーやパネルディスカッションを設ける。教育研修講演を日医の認定産業医の講習と互換性をもたせるなど計画している。
2. 労務安全法の改正に伴い、整形外科医の産業医としての取り組みの実態調査をした。
3. 頸肩腕症候群と頸肩腕障害の用語の意味を明確化する作業に取り組んでいる。

## 医療システム検討委員会

骨と関節の日の関連行事について

1. 9月9日、今年のテーマ「肩こり」について記者説明会を行った。報道50社が出席し27県で地方紙に掲載された。10月8日読売新聞全国版に掲載される。
2. 10月8日は日整会事務局で電話相談を行う。これは日整会ホームページにも掲載してある。

## 骨系統疾患委員会

1. 10年間の登録実績があり、JOSに掲載して会員に公表したい。
2. 国際命名分類が1997年に改訂されたので、日本語訳の改訂に取り組むべく検討中。

## 移植問題等検討委員会

9月10日、理事長より厚生省および日本医師会に同種骨移植の保険点数収載に関する要望書を提出した。ただちに厚生省より骨バンクをつくる見積もりと全国の同種骨移植実態報告を求められたので対応している。来年度の保険点数収載が期待できる。

## 骨粗鬆症委員会

1. 昨年度大腿骨頸部骨折の全国アンケートを行い、3万件以上のデータが集まった。現在集計中である。
2. 今年度は骨折予防に関する調査をする。

## 倫理委員会

1. 特別委員会から常置委員会になった。
2. 昨年は同種骨移植の問題、日整会誌における倫理規定の問題を解決して自立した委員会活動の目標がなくなった。外からの要望を受けたい。

## Q&A委員会

2年間の特別委員会としてスタートした。

1100題あるQ&Aの全問題をつくり変える作業に入った。200人の先生に問題作成を依頼し、再来年春に発刊する。

## 第4回日米欧加整形外科合同会議準備委員会

合同会議を日整会として取り組むための特別委員会として新設した。

開催日は2001年6月1～3日。シンポジウムのテーマはcell and tissueとbone adaptationとevaluation of implantsの三つ。

## 学術プロジェクト委員会

遺伝子診断や治療など近年の新しい分野に学会としてオピニオンリーダーの役割をはたせるように設けた。当面「骨と関節の10年」に呼応する。社会的に魅力のある学際的な研究プロジェクトを模索する。

## 診断評価基準委員会

筋骨格系の診断治療の評価基準を学会として作っていくために新設した。

## 質疑

関評議員（関東）：前回の役員評議員懇談会で倫理委員会に倫理規定に関わる問題が生じたときにこれを検討する作業部会をつくるよう提案した。当時の担当理事は作業部会ではなく委員会そのものを法律家や学識者をメンバーとして活動するとの回答を得たが今回の委員会報告は内容が違う。どういう経緯でそうなったのか。

担当理事、理事長：問題が生じたときは理事会で審議するという事に理事会で決まった。

大野評議員（関東）：医療システム等検討委員会は柔整師の問題にどう対応しているのか。

担当理事、副理事長：この問題は委員会レベルで対応できる問題でなくなり、理事会が直接に対応している。某大学が柔整師養成の短大の増設を申請しているが、2年間で骨と関節について履修するのは我々の常識からみれば問題がある。文部省、厚生省に慎重な対応を要望しているが、柔整師は法律的に認められている資格なので対応が難しい。

佐藤評議員（東北）：日米欧加整形外科合同会議は昨年は日整会は関与しないという姿勢で基礎委員会とが支援して開催された。今回基礎委員会の報告を聞くと、基礎学術集会の教育研修講演の演題を検討中というだけなので、合同会議は基礎委員会が対応すれば新しい委員会の必要はないのではないか。

理事長：合同会議は基礎委員会と国際委員会にまたがるものである。目的が決まっている活動なので、特別委員会を作って対応したい。

## 日整会定款改定に伴う規則等の制定について

平成8年12月、文部省学術情報課からだされた「公益法人の設立許可および指導監督基準ならびにその運用指針」が閣議決定された。その結果、法人の運営が厳しく規制されるようになった。社団法人日整会もその適用を受ける。

その最も強く影響するところは、総会で定数が会員の半数以上とされるため、代議員制をとらざるをえなくなった。そのため平成11年4月、定款改定を行った。今回、定款の施行実施に関わる規定である定款運用規則、代議員選挙規則、代議員選挙細則、罷免に関する手続き規定の案をつくった。

大幅な変更となる選挙規則では、地区分けが現在7地区であるが、第1回の代議員選挙は従来の地区分けでいくが、これは将来新たな地区分けをしなくてはならない可能性がある。これは投票記載人数が1名になるため、1票の重みの格差が生じるためである。また立候補の届け出は本人の届け出のみとなる。被選挙権の要件(認定医、非認定医など)は問わない。平成12年の総会で定款施行規則を決定する。

## 質疑

佐藤評議員(東北)：秋田県は代議員1名である。その1名が代議員会に出席できないときは支障があるので、各県2名の代議員を認めてほしい。

担当理事：そうなると1票の重みの格差の問題などもおこる。格差についてはブロックを組み替えなければいけないということもおこるので検討させてほしい。

## 評議員提案議題

4件の提案があった。

### 提案議題名 日整会認定医制度の改善について

提案理由

関東地区 秋山典彦

日整会認定医の目的は、整形外科医として一定の水準に達していることの指標を国民に示すことにあると考えます。

われわれ勤務医会はアンケート調査を行い、「この一定の水準」は、ある程度合意に達してきています。問題は、評価方法にあると考えます。特に、技術と判断力の評価は困難です。これについての提案をします。

1. 施設基準の再検討など研修施設の充実と研修指導医の拡充の具体策を作る。
2. 複数の研修施設での研修など認定受験資格を検討する。
3. 面接試験の充実など認定医試験の改革をする。

### 提案議題名 日本整形外科学会ホームページの活用について

提案理由

関東地区 石名田 洋一

新しく日本整形外科学会ホームページが開かれ、日を追って充実していく様子を拝見するにつけても、関係者のご努力の賜と御礼を申し上げる次第でございます。

現在までのアクセスの状況と、寄せられたご意見等につきまして、差し支えの無い範囲で、発表していただきたく存じます。

又、今後の活用方法につきまして、一般市民向けに、学会の活動を知らせるもの、例えば骨と関節の日のP.R、電話相談、市民講座等を掲示し、また要望を聞く、会員向けには、理事会や各種委員会の報告をのせ、会員からの意見を求める等、いろいろな構想がおりることと存じますので、その一端をお知らせ頂きますようお願いいたします。

今後とも運営につきまして、ご苦勞が多いことと存じますが、よろしくお願い致します。

## 提案議題名 「骨と関節の日」について

提案理由

近畿地区 長田 明

1. 本年度テーマ「骨こり」の記者発表会の成果・反応はどうだったのか説明を求めます。
2. 来年度のテーマは「骨折」を提案  
人口の高齢化に伴って骨粗鬆症や悪性腫瘍の骨転移を基盤とする病的骨折や、スポーツ障害等による疲労骨折など診断と治療には豊富な医学的知識と技術が必要です。  
柔整師との相違を国民に認知するよう働きかけることができます。

## 提案議題名 「骨と関節の10年」について

(The Bone and Joint Decade 2000~2010)

提案理由

近畿地区 三橋 二良

1. 日整会としての構想と、その計画及び進捗状況について説明を求めます。
2. 日整会会員はもとより、一般市民にあまり遊離した事業にならないよう配慮してすすめてほしい。  
(会議、会合、講演会、スポーツイベント、記事、報道、出版物、各種イベント等)

### お知らせ

## 関東地区整形外科勤務医会 第29回日整会認定教育研修会

関東地区整形外科勤務医会では、下記のごとく幹事会及び教育研修会を開催いたします。なお、研修会の出席予約は要りません。認定医以外の先生方もお誘い合わせの上、ご参加下さい。会終了後、懇親会も予定しています。

### 記

日 時：平成11年12月4日(土) 16:00~18:00  
会 場：住友化学・参宮寮(地図参照)  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-1-3  
TEL 03-3320-3994

幹事会：15:20~16:00

教育研修会：16:00~18:00

- (1) 手指骨・関節・軟部損傷の病態と治療  
(16:00~17:00) (N,S 1単位)

講師：土浦協同病院

整形外科部長 石突 正文先生

- (2) スポーツによる末梢神経障害  
(17:00~18:00) (N,S 1単位)

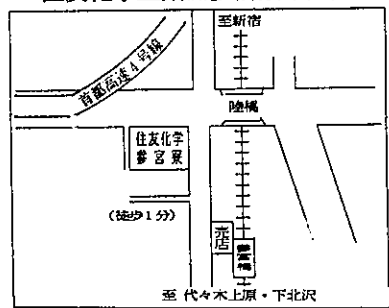
講師：筑波大学臨床医学系

教授 落合 直之先生

会 費：1題 2,000円

懇 親 会：ひきつづき18:15より同会場において行います。 共催 住友製薬株式会社

住友化学工業㈱参宮寮案内図



東京 (中央線) 20分 新宿 (小田急) 10分 参宮寮

■ 駐車場はご座居ません。

## 勤務医会ニュース

### 全国整形外科保険審査委員会議

平成11年9月12日(日)品川プリンスホテルにおいて第5回全国整形外科保険審査委員会議が厚生省保険局医療課の梅田 勝企画官の臨席を得て全国から200余名の審査委員の参加のもとに開催された。企画官より診療報酬の抜本改定に関する講演の後、保険診療上の問題点がQ and A方式で審議された。また、これまでのQ and Aから

作成した日本医師会や厚生省に提出する要望事項が日整会社会保険等委員会より報告された。

日本整形外科社会保険委員会より提出したQ and Aの問題と審議内容をここに収載します。Q and Aといっても必ずしも答えがあるわけではないので審議内容をコメントとして要約しました。

要望事項についてはもっと詳細な説明つきのものですので、要点のみを要約しました。会議の詳しい議事録は後日発行されますので、詳細な資料をご入用な会員は事務局にお問い合わせいただければ資料提供いたします。

### 平成11年度全国整形外科保険審査委員会議での日本整形外科勤務医会社会保険委員会から提出した事案(Q)と審議結果(コメント)

#### Q 1

長管骨の内、外反骨切り術をK0528骨長調整手術として創外固定器使用加算10,000点の算定は可能か。

#### コメント

創外固定器加算できる複雑骨折は開放骨折のみに限定し粉碎骨折、関節内骨折などへの適応拡大を要望事項の12位に出した。内、外反骨切り術への適応も骨長調整手術とは別に要望事項として出すようにする。

#### Q 2

K047難治性骨折電磁波電気治療法16,300点およびK047-2難治性骨折超音波電気治療法14,500点の開始時期は受傷後何ヶ月とするか。

#### コメント

3ヶ月と6ヶ月という審査委員の意見が多かった。3ヶ月という解釈でよい。

#### Q 3

K134椎間板摘出術 1. 前方14,900点、2. 後方12,900点、3. 側方13,600点、4. 経皮的8,030点の4つの術式があるがこんなに細分する必要はあるか。

#### コメント

1. 2. 3. は統合して同じ保険点数(15,960点)とする。4は現行通りで要望事項の15位で出している。経皮的摘出術は他科の医師が多数回行い、不成功で整形に回してることがあり回数の縛りをつけたほうがよいとの意見あり。

#### Q 4

K133黄色靭帯骨化症手術は多椎に手術を行った場合、椎弓切除術(K131)や椎弓形成手術(K132)として加算請求した方が有利で、K133を設けた意味がないのではないか。

#### コメント

K133黄色靭帯骨化症手術も椎弓切除術と同様に加算をできるように要望事項としてだしてほしい。



Q 5

人工関節抜去術はK 065関節内異物除去術（股、膝）6,020点か。人工関節の感染の場合、術式は抜去のみなので点数が低すぎるのではないか。

コメント

抜去術は置換術以上に難しい場合が多い。感染などで抜去術のみ手術がある。K 065関節内異物除去術（股、膝）6,020点、K 066関節滑膜切除8,780点、K 080関節形成術21,200点などで請求したという意見が出たが、新たに点数を新設してほしい。

Q 6

K 055変形性股関節症（骨切り、臼蓋形成を伴うもの）16,100点は骨盤骨切りか大腿骨骨切りか曖昧ではないか。

コメント

特にコメントなし。

Q 7

同一指に骨接合、腱縫合、神経縫合など複合手術を行った場合、加算できないのか。

コメント

手術の通則10の「特に規定する場合」に該当。K 032～041腱の手術、K 046骨折、K 182神経縫合、K 606動脈吻合、K 623静脈吻合を併せて行ったときは重点手術を100%、他は50/100を1種類のみ加算できる。手掌部の複合組織損傷では指、中手部、手関節までは各指ごとに算定してもよい。ただし、再接着の点数を超えてはいけない。

Q 8

骨、軟部悪性腫瘍手術が皮膚悪性腫瘍手術より点数が低いのはどういうことか。

コメント

骨悪性腫瘍手術（K 053の1.上腕、大腿13,900点、2.前腕、下腿12,800点）、軟部悪性腫瘍手術（K 031の1、8,470点）、皮膚悪性腫瘍手術（K 007、13,700点）。不合理なので要望事項に入れてほしい。

Q 9

感染症患者に対する手術や処置に対して保険上何の配慮もされていない。（HIVを除く）これに対応する手段はないか。

コメント

手術の通則7でHIV抗体陽性患者の手術は4,000点加算されるが、病院感染防止の観点からHCVや多剤耐性菌感染者の手術や処置も加算されてしかるべきではないか。要望事項に入れてほしい。

Q 10

低血圧麻酔で手術を行い、請求したら査定された。低血圧麻酔の定義が明らかではない。

コメント

低血圧麻酔はL 008マスクまたは気管内麻酔による閉鎖循環式全身麻酔に100分の100加算。低血圧麻酔は利点が多いので厳しく査定するのはよくない。正当な理由と麻酔記録をつけて請求ができれば認めていただきたい。

## Q11

フィブリン糊(ティシール、ペリプラストPなど)の整形外科手術への適応はどこまで認められるか。

### コメント

人工関節手術(特に膝)で出血防止の目的で使われることもあるが、これも認めてよかろうという意見であった。

### 要望事項

- 要望順位1位：K079-2 靱帯断裂形成術(関節鏡使用)を設けて1. 十字靱帯(膝) 34,500点、2. その他31,900点とする。
- 要望順位2位：B000特定疾患療養指導料の対象疾患にRA(ステージ3またはクラス3以上)、高度の変形性股関節症、高度の変形性膝関節症を追加する。
- 要望順位3位：J119消炎鎮痛処置を皮膚科軟膏処置、創傷処置と算定条件を同じにする。
- 要望順位4位：同種骨移植術を38,210点で新設する。
- 要望順位5位：K142脊椎固定術で椎体に達するもののうち多椎間にわたって同時に前方および後方より固定術を行った場合は70%増しとする。(41,700点)
- 要望順位6位：K044骨折非観血的整復術のイメージインテンシファイア使用を200点増しとする。
- 要望順位7位：K045骨折経皮的鋼線刺入術のイメージインテンシファイア使用を200点増しとする。
- 要望順位8位：K046骨折観血的手術のイメージインテンシファイア使用を200点増しとする。
- 要望順位9位：K048 骨内異物(挿入物)除去術のイメージインテンシファイア使用を200点増しとする。
- 要望順位10位：E001写真診断の1. 単純撮影のイ. 頭部、胸部、腹部または脊椎を100点、ロ. その他を60点に改正する。
- 要望順位11位：D295関節鏡検査(片側)を600→2,000点に改正する。
- 要望順位12位：K046骨折観血的手術の創外固定器加算10,000点をK046-3(鎖骨、手、足など)にも加算可とし、関節内骨折、粉碎骨折、関節周辺骨折にも認めてほしい。
- 要望順位13位：K058骨長調整手術の注の加算を10,000→30,000点に改正する。
- 要望順位14位：骨長調整監視料50点(1局所を1日当たり)を新設する。
- 要望順位15位：K134椎間板摘出術の点数を改正する。前方、側方、後方は15,960点に統一、経皮的は変更なし。
- 要望順位16位：K930からK936ギプス料でギプス料は手術行為であるため時間外加算の対象にする。
- 要望順位17位：K065-2 関節内異物除去術(関節鏡使用)を設けて1. 肩、股、膝17,500点、2. その他15,500点とする。
- 要望順位18位：K066-2 関節滑膜切除術(関節鏡使用)を設けて1. 肩、股、膝21,200点、2. その他19,800点とする。
- 要望順位19位：K067-2 関節鼠摘出術(関節鏡使用)を設けて1. 肩、股、膝18,000点、2. その他16,000点とする。
- 要望順位20位：K068-2 半月板切除術(関節鏡使用)を設けて30,500点とする。
- 要望順位21位：K069-2 半月板縫合術(関節鏡使用)を設けて31,900点とする。
- 要望順位22位：K074-2 靱帯断裂縫合術(関節鏡使用)を設けて1. 十字靱帯(膝) 32,500点、2. その他26,200点とする。
- 要望順位23位：K093-2 手根管開放手術(関節鏡使用)を設けて17,530点とする。

## 骨と関節の日電話相談

10月8日、恒例の「骨と関節電話相談」が日整会事務局で行われた。この日は勤務医会と医療システム検討委員会の委員が担当することになっているが、当日は日整会基礎学術集会の第2日と重なったためか、勤務医会のメンバーは一新し、システム検討委員会の先生も学会半ばにして奈良から東京に移動して担当された。勤務医会のメンバーは午前は関 寛之、立花新太郎常任幹事が、午後は土屋正光、勝又壮一幹事が担当した。今年に読売新聞の全国版に記事が載るなどマスコミ対策も万全で相談開始の10時前から、事務局の3台の電話が鳴り始めた。留守番電話が無情に回り続けるなか事務局の方のインストラクションを聞いてスタンバイした。3台の電話を4人で対応するのであるが、相談内容を記録しなければならないので、走り書きしては空いた電話に飛びつくという状態で担当時間の3時間半は息つく間もなく過ぎた。13時30分に午後の担当者とバトンタッチしたが、いつになく空腹感を感じてボリュームのあるお弁当を残さず平らげてしまった。相談件数は午前、午後とも72件で計144件であった。担当の先生方ご苦労さまでした。(関)

## 会員の移動

### 新入会員

川田 英樹 神奈川県衛生看護専門学校付属病院  
〒235-0022 横浜市磯子区汐見台1-6-5  
TEL 045-761-3581

清水 顕 国立身体障害者リハビリテーションセンター  
〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1  
TEL 042-995-3100

阿部 智行 荻窪病院  
〒167-0035 東京都杉並区今川3-1-24  
TEL 03-3399-1101

渡辺 景太 荻窪病院  
〒167-0035 東京都杉並区今川3-1-24  
TEL 03-3399-1101

河野 亨 荻窪病院  
〒167-0035 東京都杉並区今川3-1-24  
TEL 03-3399-1101

早稲田明生 荻窪病院  
〒167-0035 東京都杉並区今川3-1-24  
TEL 03-3399-1101

楠瀬 浩一 東京労災病院  
〒143-0013 東京都大田区大森南4-43-21  
TEL 03-3742-7301

樋口 三郎 茅ヶ崎市立病院  
〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村5-15-1  
TEL 0467-52-1111

田中満智子 横浜市しらとり園  
〒240-0062 横浜市保土ヶ谷区岡沢町56  
TEL 045-331-2841

### 退会者

二瓶 隆一(東京)	飯田 裕(埼玉)
高橋 定雄(神奈川)	土田 豊実(千葉)
田内 利幸(千葉)	赤坂勤二郎(神奈川)
青田 洋一(神奈川)	坂田 禮一(茨城)

これまで勤務医会へのご協力ありがとうございました。

### 訃報

高沢 晴夫先生(名誉会員)は平成11年9月9日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 訃報

三上 隆三先生(聖路加国際病院)は平成11年11月2日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 勤務医会入会のご案内

今年はこれまで31名の新入会がありました。会員の医長、部長の先生方が若い先生に積極的に働きかけていただいた結果です。これからもローテーターの先生や近くの病院の入会されていない先生に働きかけていただきたくお願いいたします。

今回から入会申し込み用紙にe-mailのアドレスを加えさせていただきました。お差し支えなければご記入をお願いいたします。

### 入会申込書

平成 年 月 日

(フリガナ)  
御氏名

生年月日 (大正・昭和) 年 月 日

現住所 〒

TEL

勤務先名称

勤務先住所 〒

TEL

FAX

e-メール

役職名

出身大学

卒業年度

出身教室

入会申込み送り先

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

国立身体障害者リハビリテーションセンター病院内

関東地区整形外科勤務医会事務局

関 寛 之

TEL 042-995-3100 FAX 042-995-0355

## 事務局日誌

- 7月25日 全国整形外科保険審査委員会議の打ち合わせのため日整会社会保険等委員会小委員会に出席
- 7月30日 日整会に教育研修会(12/4)開催通知書を発送
- 8月7日 日本整形外科勤務医会・社会保険委員会
- 8月17日 日整会社会保険等委員会にアドバイザーとして出席
- 9月10日 常任幹事会
- 9月12日 全国整形外科保険審査委員会議
- 10月6日 日整会役員・評議員懇談会と日本整形外科勤務医会幹事会
- 10月8日 骨と関節の日の電話相談(日整会事務局)
- 11月4日 会報42号原稿を印刷所に発送

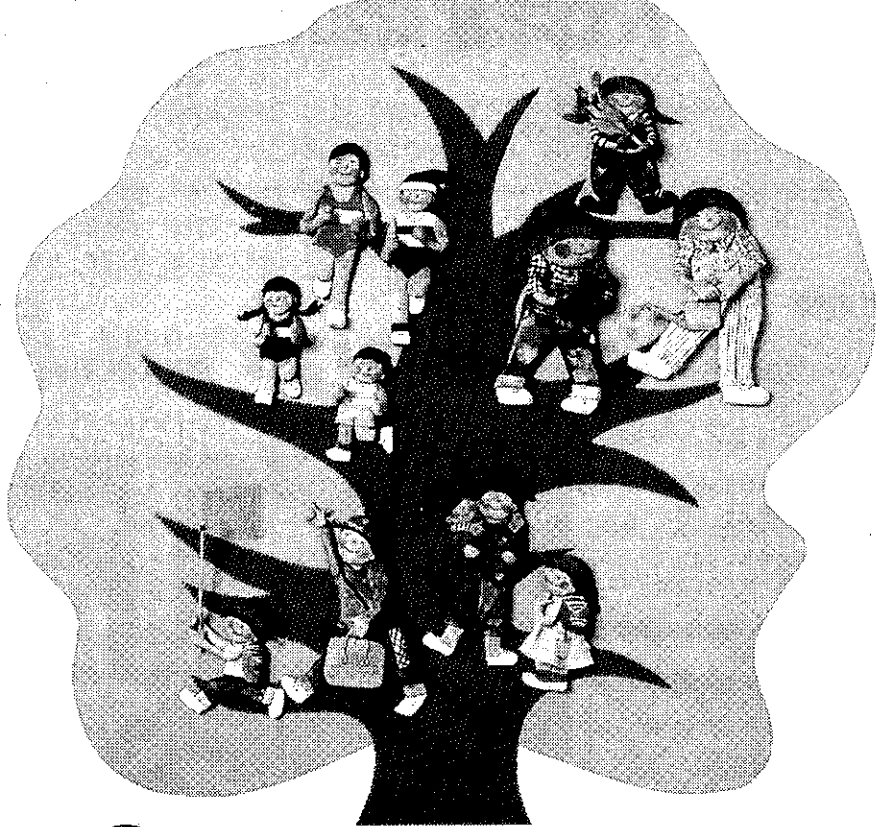
### 編集後記

会報発行と平行して平成11年度版の会員名簿の作成作業を行っている。全会員に消息を問い合わせる往復はがきを送ったが、昨年と変更なしという会員は半数以下であった。また、入退会者数は毎年50~60名あり、勤務医会は新陳代謝の盛んな会である。会員が少ないわりには結構やってる感じがするのは、このあたりが現れているのかもしれない。毎年の名簿の発行はあわただしいが、役にたたない名簿では意味がないのでがんばりたい。何人かの先生はe-mailのアドレスをつけていただいたので、これも載せた。今年は事務局の準備不足で10名位しかe-mailアドレスを載せられなかったが来年はちゃんとやりますという意志表示だと思ってください。

ホネ

# 10月8日は 骨と関節の日

—骨と関節の健康を考えましょう—



社団法人 日本整形外科学会

# Didronel®



骨代謝改善剤 エチドロン酸 ニナトリウム錠

特指要指 **ダイドロネル® 錠200**

薬価基準収載

■ 効能・効果、用法・用量、使用上の注意等は添付文書をご覧ください

製造発売元

資料請求先 **住友製薬株式会社**

〒541 大阪市中央区道修町2丁目2番8号

Trademark and product under license from Procter & Gamble Pharmaceuticals, Inc. U.S.A

骨補填材

## ボーンセラムP BONECERAM-P

バイオフィUNCTIONALな機能設計に基づいて製造されたハイドロキシアパタイトです。

- 特徴**
1. 骨動態学的特性を有しています。
  2. 生体適合性が優れています。
  3. 生物学的安全性が認められています。
  4. 力学的強度が優れています。
  5. 臨床的有用性が認められています。

性能、使用目的、効能または効果  
骨または関節手術における骨補填。

- 使用上の注意**
1. 本品使用の際は、無菌的に取り扱うこと。
  2. 本品は滅菌済包装してあるので、手術直前に開封し、すみやかに使用すること。
  3. 開封したものは再使用しないこと。
  4. 本品は、できるだけ清潔な場所で保管すること。
  5. 高度の荷重がかかる関節面の直下などにおける本品の単独使用は避けること。

**使用方法**  
採骨部位または骨欠損部位に、予め生理食塩液に浸漬した成形加工品または顆粒を、充填又は補填する。



連絡先  
**住友製薬株式会社**  
医療材料部

大阪市中央区伏見町2丁目1番1号 TEL(06)6229-5649  
東京都千代田区神田駿河台3丁目11番地 TEL(03)5280-6643  
仙台市青葉区大町2丁目2番10号 TEL(022)261-2651  
名古屋市東区代官町35番16号 TEL(052)935-3681  
福岡市博多区博多駅前1丁目2番5号 TEL(092)431-6671

製造元  
**住友大阪セメント株式会社**  
東京都千代田区神田糞土代町1番地

販売元  
**住友製薬株式会社**  
大阪市中央区道修町2丁目2番8号